

第2回 市長と語ろう「まちづくりふれあいトーク」

開催日時 平成21年8月3日（月）午後6時30分～

場 所 フィッシャーマンズワープMOO3階 健康推進課ホール

テ ー マ ごみの減量とリサイクルを目指して

（開会あいさつ）

【市長】

本日は大変お忙しい中、第2回目のまちづくりふれあいトークにお集まり頂きまして、心から感謝を申し上げます。第1回目のまちづくりふれあいトークは、「子育て」をテーマに開催したため、参加者のほとんどが女性で、男性がただ1人という状況で



でしたが、今日は男性の方も多くお越し頂きました。また人生経験豊かな方々がお集まりいただきましたので、しっかりご意見を賜りたいと思っております。

今日は、環境美化をテーマに、釧路川周辺を中心に清掃活動をして頂いているグループの皆さんとのことですが、まずは皆さんの日頃のご活動に心から感謝を申し上げます。

私は釧路の街には、他に誇れる財産があると思っております。釧路の夕日はインドネシアのバリ、フィリピンのマニラとともに世界3大夕日と言われており、世界に誇れる夕日の美しい街であります。他にもラッコのクーちゃんが88日間、釧路川に滞在していたことなどにより、さらに釧路が大きくクローズアップされております。

このような釧路をごみのないきれいなまちにして、市民が自慢のできる街にするためにもこのようなことができるかということ、皆さんと一緒に考えていきたいと思っております。限られた時間ではありますが、よろしく願いいたします。

（会の活動及び参加者紹介）

【参加者A】

今日は、市長に来ていただいて、このような機会を設けていただきまして、ありがとうございます。「釧路川元気の会」は、名前のおり釧路を元気にしたいということであり、色々な催しが行われ、また沢山の人が集まる場所はきれいでなければとの思いから、幣舞橋から久寿里橋までの間を清掃活動しております。会員は34名で月2回、それぞれが都合の良い日に参加することにしてあります。市には清掃ボランティア里親制度がありますが、他の団体、例えば、城山地区連や建親会という組織とも提携しながら清掃活動を行っております。

Bと申します。元気の会で4年ほど活動しながら、カラスウォッチャーというカラスによ

るごみの被害をなくす活動をしております。最近、カラスのごみ被害も減ってきております。これからも市のご理解を頂きながら活動していきたいと思っています。

Cと申します。もともと幸町に住んでおり、釧路川は小さい時から身近な存在で、親近感があって、元気の会を知ったときに参加させていただきました。一生懸命やっています。よろしくをお願いします。

Dと申します。元気の会にお世話になってから2年くらいになります。これからも皆さんと協力しながら釧路をきれいなまちにしたいと思っていますので、よろしくをお願いします。

Eです。現在、老人クラブの全道大会が10月にあり、準備をしています。ニューカムボールでは、先般、広報にも載せていただきまして、大変お世話になりました。これからも元気の会とともに元気に頑張っていきたいと思えます。

Fと申します。ゴミ拾いの元気の会をお手伝いさせていただいてもらっています。キャッスルホテルの前は、川の水より陸のほうが低くなっているのです。高波が来ると道路に水が上がってくるんです。それが現在土手の改修工事が進められており喜んでます。

Gです。老人クラブの会長をしています。平成13年頃から釧路川ふるさとの川推進懇談会の活動に参加しています。今回、勉強会ということで参加させていただきました。

Hと申します。平成13年頃から釧路川の清掃活動とおして川の両側をきれいにしています。9月15日に釧路川フェスタ2009というイベントを幣舞橋中心のエリアを使って川べりにテントを並べてフリーマーケットなどの開催準備を進めています。

Iと申します。ほぼ生活エリアの中に北大通りがあって、ほとんど毎日に近いくらい幣舞橋を渡っていますが、ある時、釧路川を幣舞橋から見たとき、ごみが浮かんで川がすごく汚れていて、泣きたくなりました。こういう経験があってこの会の活動を知って、何とかしたいと思って会に入りました。

Jと申します。勤めている所が週休2日制ということで、暇なときに何かしたいと思っていて、そんなときに釧路川元気の会が目に入ったんです。それで現在に至ります。

Kと言います。入会して2年になります。毎回、会員の皆さんがどうやったら環境がよくなるか、自分のことのように一生懸命になって考えている。そんな姿に触れられて私は帰るたびに元気をもらっている。釧路川は雨の降った後は水かさが増えて、かなり汚れるんです。ちょっと他の地域の方には見せたくないと思う。何とかあの辺が改善されないものかと思っています。

Aです。この会には最初から入っていますが、この会の良いところは、出れるときに出来れば良いところです。強制的に出るのは大変きつい。実は橋の上の砂や苔もとっている。幣舞橋は釧路が誇る橋だとすればその辺にも気をつけなければいけない。そういうところを何とかみんなで力を合わせてやっていきたい。

Lと申します。去年からこの会に参加しています。活動を始めてから他を歩いていてもタバコの吸殻とかがすぐ目に付き、自分から拾うようになりました。私にとっては歩いて活動していることは、体にもいいし、ありがたいことだと思っています。

Mと申します。私は釧路川を眺めながらのごみ拾いが好きで昨年この会に入りました。町内会でも月に1回ごみ拾いをしてはいますが、参加者は少ない。多くの住民に環境意識をもってもらいたいと思いながら活動しています。

Nといいます。生まれてからずっと南大通に住んでおります。昭和22年頃、当時は子どもたちの遊び場だった幣舞橋付近が、時代が進むとともに川が汚れてきていて大変だなと思っていたときにこの会のことを知って喜んで参加しました。

(ポイ捨て防止指導員の配置)

【参加者A】

「釧路市みんなできれいな街にする条例」ができましたが、違反者には罰則規定があったような記憶がありますが、実際は何もしていない。作っただけなのであれば意味がない。そこで、指導する人、指導員みたいな人がいてもいいのかなと思います。2つ目に川と北大通りと駅



とを一体的に清掃をやったらすごいのではないかと思います。ぜひ、年に2回くらいは実現してほしいと思います。3つ目に清掃活動に取り組む企業が多くなっていますが、そういう企業に対して市長さんから表彰してみてもどうか。一生懸命やっているということで、企業にとってはそれなりの価値があると思う。市長が表彰するくらいだから、この企業は一生懸命やってくれているんだというあたりを、美化活動への意識啓発も含めて取り組んではどうか。もう一点は、各家庭で「私はごみを捨てません」というステッカーでも各家庭に貼ってみてもどうか。遊びというわけではないが、そんなことも関心を高めるにはいいのではないかとこのように思っている。せつかく条例にしたのであれば実効性の伴うものにしてほしい。また、釧路川の底のごみをすくってみてほしい。中には何があるのか。こういうことを市民に教えることもとっても大事なと思うんです。

【市長】

条例で罰則を設けることはけっこう大変なんです。私も道議会議員時代にポイ捨て禁止条例を作りましたが、その時も罰則規定がありました。でも、これを取り締まるということになると、警察との連携もあり一つの大きな課題になってきます。むしろ罰則を設けるというよりは、市民活動を重視して、きれいな街にしていこうという趣旨の中で精神条例として制定した背景がございますのでご理解をいただきたいと思っております。条例の制定により環境意識が芽生え、清掃活動に協力する団体が数多く立ち上がり、市民各層にも幅広く参加をいただけるようになりました。今後もさらに活動の充実を図っていきたく思っています。ポイ捨て防止指導員というところまでは、技術的にまだ難しいところがあり、課題としてはありますが市民の環境意識を高めるように市として努力を続けていきます。

いと思っております。

(北大通り周辺の一体的な清掃)

【市長】

2つ目ですが、「ごみゼロキャンペーンごみ拾い隊会」を年に2回実施していますが、そこが少ないということなのでしょうか。

【参加者A】

川から繁華街、北大通りを年に何回かでも合同で清掃をしてきれいにしていこう。あそこは、結局人が多いところで、観光客もかなり来ますので、年に何回かでもやれば、市民の関心も向いてくれるのではないかと。そういうことで市の職責として商店街や市民に働きかけをしてほしいと思っています。

【参加者H】

該当地区にいるがなかなか周知されてこない。だから、もう少し周知を徹底して、みんなと一緒にやろうよというきっかけを作ったほうがいいと思います。

【市長】

とてもありがたいご意見で、そういった、ここは「まちの顔なんだ」という意識の中で関係者への周知の仕方を考えていきたいと思っています。

【参加者A】

それはまちづくりにすごく関係があると思います。みんなで何かをやるとその中から何かアイデアが出る。それがつながっていくと、長い目で見れば、いい街づくりになるのではないのでしょうか。

【市長】

幣舞橋を最後に歩いたのはいつだったのかと考えていましたが、高校の時までは北大通りへは学校から歩いて行っておりました。その後、釧路に帰ってきてからは、あまり歩いていません。ですから、先程会長もお話していた草や苔がいっぱいあるという話は、気が付かない。そのようなことが沢山ありそうですので、それらを含めて、さまざまなお話を伺いたいと思います。

(表彰制度について)

次に表彰についてお話ししますと、平成19年から釧路市マチをきれいにする推進協議会という、条例に基づいた協議会の中で表彰制度を作り、平成20年度から積極的に活動している団体を表彰しています。去年は候補団体82団体から鳥取西地域うるおい学習推進委員会、鳥取地区建設ボランティア協議会が表彰されました。今年は、葵建設、工業高校の生徒会と同窓会が表彰されていて、候補団体109団体から選ばれています。これは企業とか団体が中心ですが、表彰を通じて環境意識の向上を図ってきています。

【参加者A】

私が考えたのは、清掃活動に大変協力している企業に対して、ちょっとした木札を作って市長名を記入し表彰というか、そういうものを企業の室内に置いてもらえば、ほかの人が来たときに、この企業は清掃活動に頑張ってくれているんだなと思いますよね。表彰というのは、そういう意味なんです。看板みたいなものでも良いと思います。

これは、企業ばかりでなく、企業に勤めている人にも影響を及ぼすものですよね。私は、厳密にやることは考えていない。年に何回かやっていたら、一生懸命やってくれたんだから、これからも頑張るという意味も込めて、「一生懸命頑張ってくださいました。頼りにさせてもらってます。」ということを書き渡す。今までの表彰とは分けて考えてほしい。お金のかからないPRの仕組みを考えようというものです。

【市長】

そういう形の中で実施して、看板というか木札が会社にかかっていたら、この企業は清掃活動に協力していることがわかるようにするということですね。

【参加者A】

他の方はどうでしょう。私はそう思ってるんですが。

【参加者D】

私は、いいと思う。というのは、始めは、私が来た2年くらい前はごみがすごく散らかっていたんです。それがね、今現在、ごみがありません。きれいになると、捨てるほうもやはり気が引ける。

【参加者K】

ちょっとお聞きしたいことがあったんですが、公園にごみ箱を置かなくなってからだいぶ経ちますが、ごみ箱がなくなって公園のごみがどうなったのかということをお聞きしたいのですが。

【リバーサイド推進主幹】

去年まで公園を担当しておりましたのでお話ししますが、公園にごみ箱を置いていたときは、家庭のごみを持って来る人がおりました。それから、捨てられたごみやごみ箱に入っているごみがカラスによって散らかされるということもありました。ごみ箱がなくなってからは、なぜごみ箱を置かないのかという苦情もありますが、家庭のごみが公園の中に捨てられることは少なくなっています。不法投棄はあることはありますが、ごみ箱があったときに比べると減ってきております。先程もお話がありましたが、きれいになればなるほど、捨てにくくなっているんですね。ですから公園を管理する方は、本当にきれいにするように、ごみを散らかしておかないように、散らかっていたらすぐ片付けるように、これを徹底しており、その取り組みがこういう結果になっているのかなと思っています。

【参加者K】



私はごみ箱を置かないことでごみがなくなっていくという感じがしたので、ごみ箱をなくしたのは正解だなと思います。

【参加者E】

きれいに片付いていると、ごみは持って帰るかというふうになる。やはりプレッシャーを感じますよね。ごみを持って帰るということが、一般の方に浸透してきたと思いますね。きれいな環境を作ることはそういう意味で効果があると思います。

【参加者A】

団体なんかで使う場合は、その点はすごく徹底している。

【参加者B】

例えば、市が表彰する場合にいろいろな形式がありますよね。そうすると何日くらいまでにどうのこうのっていうのがありますでしょ。そうではなくして、元気の会でお願いしようとしていることは、元気の会のほうから協力企業を推薦したら、それに対して対応していただけないかと、そういう風に考えていただければありがたいなど。そうでないと、何とか委員会とか条例がどうのとか言われたら、日にちはかかるしね。

【市長】

現在の表彰制度はマチをきれいにする推進委員会の中で、一般市民の参加のもとに様々な団体が推薦してきたものの中からどの団体がふさわしいのかを審査することになっていますが、今日の皆様のご意見を参考にしながら検討したいと思います。

(自由討論)

【参加者F】

一つ、歩いていて気になったことがあるのですが、物揚場の使い方が悪い。物揚場というのは漁業者が作業をする場ですが、歩いていると網に足が引っかかったりするんです。そういったものに対して市として何か規制が出来ますか。わがままかもしれませんが、漁業者の自覚を促す意味で市から指導が出来るのですか。

【市長】

東港では漁業者の漁具などがビニールシートで覆われているのを見かけますが、それを放っておくと既得権が発生する場合もあるので、その前に何とか解除するような形を考えていきたい。今リバーサイドを整備していますが、ここは釧路の顔ですから、この景観をきれいに保っていく上でも、漁業者のビニールシートで見苦しくならないようにしなければなりません。市には景観条例があって、景観の保全という観点から出来ることはあるのか。漁業団体とかに協力を求めていくとか、いずれにしても一定のルール作りが必要と思っています。

【参加者F】

僕も漁船のある釧路川の風景は素晴らしいと思います。漁具を置くことを許可してやるっていうことは、我々には見えないから。

【市長】

許可してはいるのですが、物揚場は作業をする場所だから、漁に必要な網や資材を一時的に置いている。でも長期間の占有を認めているわけではありません。

【参加者C】

ポイ捨てることですが、ポイ捨てる人はいったい誰かってことを考えたんです。まず、歩いている人ですね。釧路市内を歩いている人は、年寄り、学生くらいしかいないですよ。働いている人たちは、ほとんど車ですよ。ポイ捨てるで一番増えているのは、高校生です。学校の帰りにジュースを飲んで、何か食べながら、必ずどこかで気前よく投げていく。それを私たちが処理してるんですけども。だから、高校生の指導は緊急を要するといえます。

【参加者G】

啓発というか、啓蒙というか、市民一人一人がみんな出来るようにすることが必要なんです。私たちはこういう活動をしているから意識も高いっていうのがあって、町内会に入っているとだいたい協力し合って、何とかやっているんです。でも、町内にいる人が100パーセント町内会に入っているわけではないですよ。犬の糞



やごみの出し方についても、町内会の人には言えますが、入っていない人にはやっぱり言えないんですよ。喧嘩腰になっちゃいますから。ですから、やっぱり町内会に入っていない人に周知するためには、新聞なり、広報なり、あらゆる機会を通じて、市長さんの権限でね、お知らせしてほしいと思います。普段、広報誌を見ていると、そういうことは載らないですよ。広報誌に載せるのもいい方法ではありませんか。

【参加者M】

私は公園のすぐ傍に住んでいますが、毎日のようにきている犬は、おそらく排泄物を出している。公園の中には「公園内で犬を放さないで」という看板が設置されていますが、「散歩しないでくれ」とは書いてないんですよ。散歩はさせていいものだと思っているんです。決まった時間にだいたい連れてくるのですが、行ってみるとやっぱりあるんです。ですから、看板の文言をもう少し作り変えたほうがいいんじゃないかと思います。

【参加者L】

1つね。犬のこともごみのこともあったんですが、看板の言葉のことです。印象に残ったのが、おばあちゃんの看板で、「あんたもいらんもん、わしもいらん」と書いてあるんですよ。結局、犬の糞だとか、ごみだとかいらん。あんたがいらんもん、わしもいらんと。こういうおもしろいというか、ユーモアのある言葉を子どもから募集して看板にしてはどうでしょうか。城山小学校では、校長先生が、学校長と書いて「犬の糞はお持ち帰りください」という看板が4つくらいある。だから、犬がそこに入っていくんですよ。

【参加者C】

幣舞橋の下にあるトンネルの中に幣舞橋の絵が掲示されていますが、あれがまったく見えない。錆びてるし、暗いし、何も見えませんよ。だから、もったいないです。観光客の人が来たときに説明したこともあるのですが、「残念ですね」って帰っていきますね。けっこう、いいものじゃないですか。やめるならやめて、はずしてしまうか、それはお任せしますけども。

【市長】

それは、確認してみますね。

【参加者N】

それと別なことですが、まちづくりということで、私たちの活動は春から秋にかけてごみを回収していますが、冬場のことになります。せめて、幣舞橋の歩道の除雪だけは完璧にしてほしいのです。歩道の除雪の際に欄干側に雪を残すと、傾斜によって日中に雪が溶けて車道に向かって流れるんですよ。それがあとで凍るんです。凍ると滑るから砂をまく。その砂が春先に溢れて、砂埃がすごいんですよ。本当に見苦しいです。冬に観光客がおいでになって、周りに雪があるのはいいですよ。でも幣舞橋を渡ったときには、歩道には雪がないが滑って危険。幣舞橋だけでもいいから、歩道の雪かきをちゃんとやってほしい。

【参加者J】

私、幣舞橋の歩道の除雪でも幣舞橋だけでもやっていたほうがいいねという話を聞いたものですから、この権限はどこにあるのですかと聞いたら、開発だと分かりました。それで開発建設部に聞いたら、雪が降ったらある程度の時間が経ってからやるとのことでした。市が市道を除雪した時はやるとか、その基準は分かりませんが。僕はそれで直接課長補佐に電話したらその3日後に除雪しましたね。言えばやるんですよ。

【市長】

私が言うのもなんですけど、機動力があり、直営部門を持っていますから、市よりも開発建設部のほうが明らかに早いんですよ。

【参加者K】

幣舞橋の件については、欄干側に置いておくと、溶けて流れて凍るので危険なんですよ。だから、欄干側に置かないでほしい。

【市長】

その点は開発建設部にお伝えします。

(閉会あいさつ)**【市長】**

今日は、本当にさまざまなお話を伺うことができ、心から感謝をしております。やはり自分の目で見ないと気が付かないこともあるんだなと思った訳ですが、幣舞橋の歩道に傾

斜があることも改めて気付かされたわけでごさいます、本当に色々今日はありがとうございました。また、お話をいただきました様々なご意見については関係課の中で検討をしていきたいと思っております。

教育の大切さというのはあると思います。ごみの分別のお話では、多くの人から子どもに叱られたということを知りました。学校でごみの分別のことを子どもたちが教わってくると、家でお父さんとかがいい加減な形でやってしまうと、逆に子どもに、何をやってるの。これはこういう形でやるもんなんだよと言われると、これは参った。やはり、子どもからの教育というか、意識をしっかりと植え付けていくことが、当たり前ですけど、大事なことだと思えます。釧路の将来を考えたときに、しっかりした環境意識を育てていくことの必要性がございまして、それらの点も含めまして、今ある条例の中に入れていきながら、色々な事業を進めていきたいと思っております。本当に沢山のアイデアをいただきましたので、内部で様々な角度から検討していきたいと思っておりますので、よろしくお願いを申し上げる次第でございます。今日は本当にお忙しい中、お集まりいただきまして、心から感謝を申し上げ、会の終わりの挨拶とさせていただきます。誠にありがとうございました。

